

# ぐるり30

～自治調査会だより～

2023

12

NO. 123

[発行日]  
2023.12.1



江戸時代の家屋を再現した里山民家には、いろいろやかまど等もあり、老若男女問わず昔を知ることができる場所となっています。

【撮影者】江上省造氏【撮影場所】都立野山北・六道山公園 里山民家

## Contents 12月の内容

- ▶ 多摩東京移管130周年記念
  - ・写真で見る多摩の昔と今～JR青梅線とJR五日市線～… 2
  - ・多摩市町村のあゆみ～都制編入運動～… 3
  - ・東京自治会館前 郵便ポストラッピング… 3
- ▶ 三多摩・東京移管の原点を考える… 4
  - 一 町田市立自由民権資料館一
- ▶ オール東京62市区町村共同事業
  - みどり東京・温暖化防止プロジェクト 市町村の取組紹介… 6

- 武蔵村山市 環境保全をテーマとしたポスター・標語コンクール
- 多摩市 多摩市住宅用創エネルギー・省エネルギー機器等導入補助金
- 八丈町 檜立・中之郷・末吉地域花いっぱい運動推進事業
- ▶ 多摩交流センターだより
  - ・広域的市民ネットワーク活動支援 申請団体募集中！… 7
- ▶ 多摩・島しょ とっておき歴史発見 ～武蔵村山市～… 8



◀ 多摩東京移管130周年記念ロゴマーク  
当調査会は多摩東京移管130周年記念事業を展開しています。

公益財団法人

東京市町村自治調査会

# 多摩東京移管130周年



## 写真で見る多摩の昔と今

### ～ JR 青梅線と JR 五日市線～

先月号に引き続き、多摩・島しょ地域の39市町村から提供していただいた貴重な写真を紹介します。今回は、JR中央線の駅をピックアップしましたが、今回は、JR青梅線とJR五日市線の中から提供のあった4駅を紹介します。鉄道は多摩地域の発展に大きな役割を果たしました。写真を通して、多摩地域の発展を振り返りましょう！

(本紙6月号(NO.117)にて、多摩地域の鉄道史について紹介しています。)

昔

青梅駅

今



▲1961(昭和36)年頃



※両端のビルは現在再開発のため取り壊されています。

羽村駅

昔



▲1960年代

今



奥多摩駅

昔



▲1955(昭和30)年頃

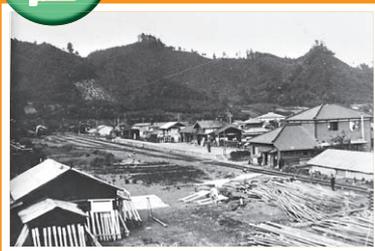
今



昔

武蔵五日市駅

今



▲1925(大正14)年頃



## 多摩市町村のあゆみ

本紙では今年度、多摩地域の歴史について不定期に掲載していますが、今回は、都制の実現と多摩地域の関わりについて見ていきましょう！

### ～都制編入運動～

#### ① 都制の区域をどうするか

1943(昭和18)年に東京都が生まれるまで、東京も現在の大阪や京都と同様、東京府の中に東京市があるという制度をとっていました。大正期、東京の大都市化が進展すると、二重行政の無駄を省き、府と市を一体とした都制の必要性が強く叫ばれるようになりました。同時に東京への人口の集中は、東京市隣接5郡(荏原、豊多摩、北豊島、南足立、南葛飾)への人口の拡大も伴っていたため、都制の区域をどうするかも問題となりました。

#### ② 多摩地域除外の帝都制案

1923(大正12)年、帝国議会に「帝都制案」が提出されました。この案は、都制の区域を東京市域と隣接5郡とし、多摩の3郡を神奈川県に編入しようというものでした。多摩地域はこれに猛反発しました。多摩地域は1893(明治26)年、東京府の水源管理を理由に、強い反対があったにもかかわらず東京府に編入された、という歴史を持っていたからです。多摩地域は東京府編入後、東京との関係を深めながら地域発展を図ってきたのです。

#### ③ 都制編入期成会の結成

神奈川県編入反対ではじまった運動は、その後、都制編入を求める運動へと発展していきました。1925(大正14)年には運動の統一がはかられ、三多摩郡八王子市都制編入期成会が結成されます。これは多摩地域選出の代議士、府会議員、各市町村長らが参加する地域ぐるみの組織でした。東京市側の多摩除外都制実施の動きに対抗して、内務省、国会、各政党本部などに陳情をねばり強く繰り返しました。多摩地域が都制に含まれることになったのは、この運動の成果だといえます。



宮城付近を行進する都制編入の陳情団 (『東京と三多摩』より)

(公財) 東京市町村自治調査会「多摩市町村のあゆみ」より

### 東京自治会館前 郵便ポストラッピング

多摩東京移管130周年を記念して、多摩地域応援キャラクター「たまらんにゃ〜」が東京自治会館前の郵便ポストに出現しました。通行人の方にも、『多摩』と『130周年』を知ってもらうために頑張っています。ぜひ見に来てください！



子どもたちからも「かわいい！」と大好評☆

※2024(令和6)年3月末まで

#### 問合せ先

(公財) 東京市町村自治調査会 総務課  
TEL 042-382-0068 FAX 042-384-6057  
ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>

#### 〈東京自治会館へのアクセス〉

- ・JR中央線/武蔵小金井駅からバス(南口1番のりば)  
京王バス府中駅行き(学園通り経由または一本木経由)  
「東京自治会館」バス停下車
- ・京王線/府中駅からバス(北口1番のりば)  
京王バス武蔵小金井駅行き(学園通り経由または一本木経由)  
「東京自治会館」バス停下車



▲ホームページ

三多摩が東京府へ移管された要因の一つに、多摩地域で盛んだった自由民権運動の存在があるといわれています。その自由民権運動の歴史を学ぶ施設として、町田市に「町田市立自由民権資料館」があります。今号では、その資料館について、町田市に寄稿いただきましたので紹介します。

## 三多摩・東京移管の原点を考える —町田市立自由民権資料館—

### ❖ 自由民権運動と町田

明治10年代に盛り上がった自由民権運動は、演説や討論、新聞や雑誌などを活用して自らの考えを社会に広め、国会開設と憲法制定をめざした政治運動です。この運動は、言葉の力で社会は変わると信じた人びとによる日本で最初期の運動だったといえるでしょう。

町田をはじめとする現在の多摩地域の大半は、1893(明治26)年3月末まで神奈川県に属していて、全国でも有数の自由党員数を誇っていました。町田市域は、自由民権運動の“牙城”といえる場所だったのです。東京・横浜に近く、新たな文物に触れる機会が多いという条件もあったのでしょう。その神奈川県の民権運動の中心にいたのが石坂昌孝や村野常右衛門でした。

石坂は、初代の神奈川県会議長で、1881(明治14)年に武相懇親会を開き神奈川県有志の団結を呼びかけ、政治結社「融貫社」を結成、翌年には村野らとともに自由党に入党します。村野は、1883(明治16)年に若手運動家の育成のため、文武館「凌霜館」を開館します。凌霜館は、政治運動に野心と熱意をもつ若者たちが集い、剣術とともに政治や法律、経済などを学び、時事を語る場でした。



▲石坂昌孝(左)・村野常右衛門(右)  
(資料館保管「野津田町・村野家文書」より)

### ❖ ゆかりの地に自由民権資料館

昭和50年代後半、自由民権百年を記念した学習会や講演会・シンポジウムなどが全国各地で開催されます。町田にも武相民権運動百年記念実行委員会の事務局が置かれ、積極的な学習・研究活動を展開していました。その学習研究活動への共感から、村野常右衛門のご子孫から「自由民権運動の歴史的意義を後世に伝えるために利用してほしい」との理由で凌霜館跡地が町田市に寄付され、それを受けて1986(昭和61)年、同所に自由民権運動と町田の歴史を学ぶ施設として町田市立自由民権資料館が開館しました。



▲資料館外観

現在、自由民権運動や町田市域の歴史を伝えるための展示・講座・資料収集に取り組むとともに、町田市の歴史により興味を持ってもらうため、2022(令和4)年度に、自由民権運動及び新たに町田の通史を紹介する2つの常設展示をリニューアル公開しました。また、2023(令和5)年6月27日には、「凌霜館跡」が町田市指定旧跡に指定されました。

## ❖ 三多摩移管と町田

町田市は、しばしば「町田・神奈川問題」として人びとの注目をあびます。その要因の一つにあるのが、1893(明治26)年の「三多摩移管」です。

東京府は、明治10年代から玉川上水など水資源の確保・管理のため西・北多摩の編入をめざしますが、実現しませんでした。しかし神奈川県では、1892(明治25)年の総選挙を期に、南多摩を中心とする自由党勢力と知事との間に深刻な対立がおきます。これにより、玉川上水の通る西・北多摩がほしい東京府、南多摩を出したい神奈川県の思惑が融合し、三多摩移管の合意がなされたといえます。1893(明治26)年2月18日に国会に提出された移管法案は、わずか10日ほどの審議で可決され、4月1日に多摩三郡は移管されました。

移管法案が可決されるにいたる過程で、残念ながら住民の意思が確認される機会はありませんでした。それでも移管に賛成・反対の意思やその理由を示す当時のビラが残っています。三多摩移管は、当時、自分たちの住む「地域」について考え直す機会にもなりました。移管から130年を経た今、移管の経緯を学びつつ、あらためて自分たちの住む地域や社会を見つめなおし、考える好機でもあります。



▲常設展「自由民権運動と町田」の「明治20年代の政治運動と三多摩移管」部分

### 問合せ先

#### ◆ 町田市立自由民権資料館

〒195-0063 町田市野津田町 897

T E L 042-734-4508

開館時間 9:00 ~ 16:30

入館料 無料

休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合、その翌日)

年末年始(12月28日~1月4日) など

#### 〈アクセス〉

- ・小田急線/鶴川駅からバス(北口改札を出て5番のりば)  
「野津田車庫行き」または「本町田經由町田駅行き」に乗車、「綾部入口」バス停で下車
- ・小田急線/町田駅からバス(東口改札を出てポップ(POP)ビル先の21番のりば)  
「本町田經由野津田車庫行き」または「本町田經由鶴川駅行き」に乗車、「袋橋」バス停で下車



▲ホームページ

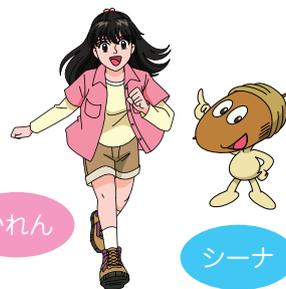


オール東京62市区町村共同事業

# みどり東京・温暖化防止プロジェクト

## 市町村の取組紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護と地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対し、助成を行っています。この中から多摩・島しょ地域の市町村で本助成を活用して実施された取組を紹介します。



かれん

シーナ

かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。

### 1 武蔵村山市

#### 環境保全をテーマとしたポスター・標語コンクール

武蔵村山市では、環境問題へ関心を高め身近な問題として考えることを目的として、毎年、市内中学校の生徒を対象に地球環境保全をテーマにポスター・標語のコンクールを実施しています。2023年度はポスター708点、標語655点の計1,363点の応募があり、最優秀賞各1点、優秀賞各20点が選出されました。

最優秀賞・優秀賞に選出された作品は6月の環境月間に合わせて展示を行い、多くの方にご覧いただきました。また、最優秀賞作品については啓発ポスターを作成し市内事業所等に掲出するなどして、地球環境保全に対する市民への啓発及び意識の高揚を図っています。

【問合せ先】武蔵村山市 環境課 TEL 042-565-1111



Tama

武蔵村山市

▼ポスター部門最優秀賞



▼標語部門最優秀賞

「ゴミじゃない  
分別すれば  
未来ある」

### 2 多摩市

#### 多摩市住宅用創エネルギー・省エネルギー機器等導入補助金

多摩市では、脱炭素社会の実現及び地球温暖化防止に向けた取組を支援する目的で、住宅用太陽光発電システム・蓄電池の導入や、断熱窓改修を行う市民を対象に、本体購入費用及び設置費用の一部を補助する事業を行っています。

2022年度は、合計80件の導入によって約107t-CO<sub>2</sub>/年の二酸化炭素が削減されたと推計されます。

今後も市民の皆さんが導入しやすい制度づくりを心掛け、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロの目標達成を目指します。

【問合せ先】多摩市 環境政策課 TEL 042-338-6831

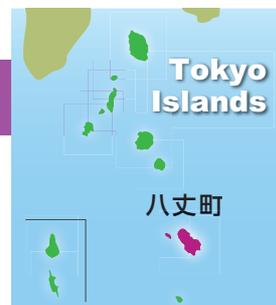


Tama

多摩市



### ③ 八丈町 檜立・中之郷・末吉地域花いっぱい運動推進事業



八丈島の南側に位置する檜立・中之郷・末吉の3地区では、花と緑のまちづくりとして各自治会が主体となり、道路沿いの花壇や街路樹等の管理を行う「花いっぱい運動」を実施しています。地域住民自らが手入れをした花壇では、色鮮やかな季節の花々が日々の暮らしに四季彩を添えてくれます。

八丈島では、海・山・温泉など雄大な自然の恩恵を五感で感じることができます。クジラの回遊や渡り鳥の飛来、甘酸っぱい果実の香りなど、季節ごとに様々な表情をみせてくれる八丈島にぜひお越しください。

【問合せ先】八丈町 産業観光課 TEL 04996-2-1123



## 多摩交流センターだより

### 広域的市民ネットワーク活動支援 申請団体募集中!

当調査会では、多摩地域の市町村の枠を越えて行われる市民活動がより拡大し、充実したものとなるように助成事業を行っています。

当助成事業は市民活動を一つの市町村だけでなく、複数の市町村で行う活動として、新たに広域的な市民ネットワークをつくってみたい、もっと拡充したいとお考えの市民団体が対象となります。

制度の詳細は、多摩交流センターで配布している「2023年度広域的市民ネットワーク活動支援制度【活動支援】の手引き」(右下 QR コード) をご覧ください。

また、今年度から団体の構成要件を緩和し、申請しやすくなりました。随時相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

※ QR コードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



【問合せ先】(公財) 東京市町村自治調査会 企画課  
TEL 042-382-7781

詳細はこちら▶





多摩・島しょ

history of tama & tōsho

# とっておき歴史発見

第33回 武蔵村山市



身近な場所で歴史を発見！今回はわたげのボクが『横田トンネル』と『歴史民俗資料館分館』を紹介するよ。

## 横田トンネル



横田トンネルは、山口貯水池堰堤建設に使用する資材を運ぶために作られたトンネルだよ。武蔵村山市は都内で唯一鉄道が通らない市として知られているけれど、当時はディーゼル機関車などが資材を載せたナベトロ（トロッコ）を牽引してトンネル内を走っていたんだって。現在は自転車道として整備され、みんなに利用されているよ。



## 歴史民俗資料館分館



歴史民俗資料館分館は、東京陸軍少年飛行兵学校跡地の一角に、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶべき場として平成28年に開館したんだ。この施設では、これまでに市に寄贈された戦争資料や当時の様子を伝える記録をもとに、戦時中の市域や人々の生活の様子を紹介しているよ。ぜひ訪ねてみてね。市公式YouTubeで平和に関する動画も公開中！



### 【現地案内】

#### ◆ 横田トンネル

(武蔵村山市本町4-43)

- ・時間 7:00～17:00 (4月～9月 18:00)
- ・利用料 無料
- ・駐車場 なし

#### 〈アクセス〉

- ・多摩都市モノレール玉川上水駅、上北台駅から市内循環バスMMシャトル「横田トンネル前」バス停下車徒歩2分



#### ◆ 歴史民俗資料館分館

(武蔵村山市大南3-5-7)

- ・時間 9:00～17:00
- ・休館日 月曜日・火曜日 (祝日の場合はその翌日)・年末年始
- ・入館料 無料
- ・駐車場 あり (3台)

#### 〈アクセス〉

- ・多摩都市モノレール玉川上水駅から市内循環バスMMシャトル「大南三丁目」バス停下車徒歩3分



【情報・写真提供】 武蔵村山市立歴史民俗資料館 042-560-6620

本紙についてのご意見・ご要望は、ホームページの問合せフォームからお寄せください。 問合せフォーム▼

【発行日】 2023年12月1日 【発行】 公益財団法人 東京市町村自治調査会 【責任者】 小暮 実  
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068  
ホームページ <https://www.tama-100.or.jp> (本紙のバックナンバーをご覧ください。)



再生紙を利用しています